

馬渡家の家系図（１）

これまで馬渡家に家系図がなかったので、過去帳、位牌、戒名札、墓地管理の埋葬許可書を基にして作成してみた。生年の記録がないものや人物関係がわからない部分もあるが、江戸時代の男性が20歳、女性が18歳くらいで結婚し、第1子をもうけたと仮定して作成している。馬渡家のルーツについて、言い伝えはあるが、それを証明する古文書などはない。過去帳や墓石に残る最も古い人物は「唯心院萬山一法居士」（戒名）と「榮昌院喜法貞観大姉」（戒名）である。それよりも前の記述は過去帳にはなく、墓石もない。

当家が江戸時代、矢沢村一帯に広い土地を所有したのはなぜか。親戚の話では、九州の佐賀鍋島藩の所領に馬渡島（まだらしま、現在の唐津市）から、馬を38頭引き連れて、50人ほどがこの地に住み着いたという言い伝えがある。馬渡家はもともと馬を育てる一族であった。東北地方は土地も広く、大昔から馬の生産が盛んであったため、この地に移住してきたとも考えられる。また、1680 年頃に、このあたりの所領は三戸南部藩から八戸南部藩に代わり、荒れ果ててきた土地を開墾せよと奨励されている。ちょうどその頃、九州佐賀藩では天災が続き、洪水などの被害もあったようだ。こうした背景があり、開墾を目的に50人ほどが移住してきたのではないか、というのが自分の推測である。（それを証明する古文書などの記録はない。）

関ヶ原の合戦（1600年）の際に、佐賀藩鍋島氏の家来である馬渡又兵衛が京都伏見を攻略した記録がある。また、江上八院の戦いでも鍋島藩の家来として戦った記録や、恩賞を願い出た記録などもある。さらに、幕末の戊辰戦争（1868年）でも、馬渡又兵衛が戦いに加わっている記録がある。九州佐賀藩の馬渡家は、代々馬渡又兵衛の名を襲名しているようである。同様に、こちらの馬渡家も代々又兵衛の名を襲名してきた。これは、馬渡一族の一部の人がこの地に移住した後も、馬渡又兵衛を誇りに思って、この名を襲名していったのではないだろうか。「八戸南部藩の殿様が馬渡家に遊びに来ては将棋をしていた、その間に家来が浅水川の矢沢橋のたもとで馬の体を洗っていた。」という言い伝えもある。明治時代の戸籍には「平民」と記載されていることから、馬渡家は「士族」ではない、しかし、もともとは佐賀鍋島藩に仕えた馬渡一族の一部の人たちが、何等かの理由で移住し、土地を開墾し、広く土地を所有する地主となり、南部藩の殿様とも親しくさせていただいた、これが馬渡家のルーツと考えている。 作成／令和2年（2020年）馬渡 康紀

